

第1回平塚市文化振興委員会会議録

日 時：平成22年 7月 16日（金）

13:30～15:30

場 所：平塚市民センター ばら

出席者：委員 10名

石川幹夫委員、岩崎由紀子委員、小野芳夫委員
片山興大委員、小中山彰委員、関本耕司委員
高田謙治委員、中野恵子委員、平野恵美子委員
森伸一委員

事務局 3名

文化・交流課長 担当職員 2名

傍聴人 なし

【配布資料】

・ 会議次第

- ・ **資料1** 平塚市文化振興委員会要綱
- ・ **資料2** 平塚市文化振興委員名簿
- ・ **資料3** スケジュール
- ・ **資料4** 体制図
- ・ **資料5** 平塚市文化振興基金条例
- ・ **資料6** 平塚市文化振興基金運用要領
- ・ **資料7** 平塚市文化振興基金積立状況

冊子

- ・ 平塚市文化振興指針
- ・ 平塚市文化振興指針（概要版）
- ・ 国・県 法令関係資料
- ・ 平塚市総合計画（概要版）

1. 開会

文化・交流課長

2. 委嘱状交付

鍵和田副市長より交付

3. 副市長あいさつ

鍵和田副市長

4. 委員会設置の趣旨説明

文化・交流課長（資料：1, 3, 4参照）

- ・ 平塚市文化振興委員会要綱
- ・ 体制図
- ・ スケジュール

5. 委員紹介

各委員の自己紹介

事務局職員紹介

6. 正副委員長の選出

委員の互選により委員長に小中山委員、副委員長に平野委員が選出された

7. 議題

(1) 平塚市の文化振興の経過について

事務局より（冊子：平塚市文化振興指針、国・県法令関係資料参照）

○平塚市市民文化基本構想が平成5年に策定され、市民主体の文化振興を目指した。「創造性と開放性に富んだ市民文化の振興」を目標に、「パートナーシップに基づく市民文化の創造」と「未来への視点をもった市民文化の創造」を2つの基本理念として体系化された。

○「ひらつか市民文化」創造における重点課題として、文化振興基金の設置、文化事業団の設立、新文化センターの建設をあげ、基本構想の4つの指針の中で取り上げている。平成6年に平塚市文化振興基金を設立、平成11年に現在の財団法人平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の前身である財団法人平塚市文化財団を設立した。この基本構想に基づき文化行政を推進してきた。

○平成13年度に国が文化芸術振興基本法を公布、平成14年度に文化芸術の振興に関する基本的な方針（第1次基本方針）、平成19年度には第2次基本方針が閣議決定され、文化芸術振興における地方自治体の責務が

明確にされた。また神奈川県は、平成20年度に神奈川県文化芸術振興条例を制定し、翌平成21年度にはかながわ文化芸術振興計画を策定した。

○本市では、国や県の動向を踏まえ、平成20年度に平塚市市民文化意識調査を実施し、平成21年度に平塚市新文化振興指針策定検討専門委員会を設置、基本構想後の新たな文化振興の指針として3月に平塚市文化振興指針を策定した。

質問等 特になし

(2) 平塚市の今後の文化振興の在り方について

事務局より（冊子：平塚市文化振興指針参照）

○対象とする文化の範囲として、平塚市文化振興指針は文化芸術振興基本法が対象とする分野である「文化芸術」を中心に据えている。平塚市市民文化基本構想を見直すという観点から、基本構想で取り扱っていたものを引き継いでいる。

○平塚市総合計画の目標設定期間を踏まえて、平成22年度から平成28年度を対象期間とする。

○平成20年度に平塚市市民文化意識調査を実施した。市民アンケートと文化関係団体へのヒアリング調査を実施した調査結果と、現行の基本構想の進捗状況を踏まえて、基本目標と施策の方向を整理した。

○基本理念「人が輝く ひらつか文化の創造 ふるさとひらつかを舞台に、ふれあい・伝えあい・結びあい、市民文化の創造・発信します」をはじめ、5つの基本目標と20の施策の方向により、この基本理念の実現に向けて文化振興を進めていく。

委員長 指針策定に関わった方はキーワード、策定経過を思い出していただけたのではないかと。平塚市文化振興指針では「人」「ふるさとひらつか」というようなことばを強調している。質問等はあるか。

委員 ひらつか文化のひとつとして囲碁があると思うが、指針における囲碁文化の位置付けはどのようになっているか。具体的に記載してある部分はあるか。

事務局 目標の4、「文化のまちづくり」の「魅力あるふるさとひらつかづくり」の説明に記載がある。その地域の特性に応じた施策の策定というものが国から義務付けられている。

委員 湘南ひらつか七夕まつりの開催日が7月の第1木、金、土、日曜日とされており、今年は7月7日にあたっていない。七夕という時節の行事であるのに7日に開催しないことに違和感を覚えた。

委員 湘南ひらつか七夕まつり実行委員会で決まった内容だが、色々な意見がある。

委員 商業的な観点と、文化としての観点には違いがあるのかもしれない。

委員 七夕の日程について語り合うことも文化振興という目的に合っていると思う。

委員 謡曲連合会の100回記念大会を祝って作った曲の歌詞にも、7月7日への想い入れが歌われている。貴重な、意味深い日だということが文化としては重要である。7日に開催できないことは残念に思う。

委員 湘南ひらつか七夕まつりは60回を迎えた。開催日数が5日から4日になり、7日に開催する場合には年によっては土日にあたらないケースが発生するので、土日に開催するために曜日を明確にする方を実行委員会として選んだようである。

委員 学校などでも七夕まつりにあわせて行事を行ったりするのではないかと。7日に祭りが開催されていないのは違和感がある。

委員 現実的なことを考慮し、伝統行事も変わってきている。地域おこしとしてのまつりという性質も強いので、曜日を優先するという結果も理解できる。

(3) 平塚市文化振興基金の活用について

事務局より（資料：5，6，7参照）

- 市民文化の振興を図るために平成6年に設置された。
- 設置当初、基金積立の目標金額12億円として文化財団の活動経費に果実（利息）を充てる内容であった。
- 文化振興基金は、設置時に市より2億円が拠出された後、文化財団の設立時にその2億円を繰り出し、現在は寄附金のみ積み立てとなっている。
- 今までに366件、63,536,426円の寄附をいただいた。利息4,720,571円を加えて、残高が67,256,997円となっている。平成11年に文化財団へ100万円を事業費として繰り出した以外は、支出した実績がない。
- 昨年度の仕事の点検作業の結果、低金利政策の中で基金の利息で事業等を運用する状況ではなく、寄附していただいた方の善意を大切に活用してほしいと、文化振興基金の活用方法を見直すよう意見をいただいた。
- 文化振興基金について、平成22年度より、「ひらつか協働経営プラン」の中で、平成23年度より年300万円を文化振興に活用することが計画されている。

委員長 低金利の昨今、果実の運用ができないため、文化振興基金の原資の取り崩しということも含めて年に約300万円を活用していくという説明であった。フリーに意見を出していただきたい。この委員会は2回の開催予定なので、その2回である程度意見をまとめるということになる。

事務局 補足だが、約6,700万円の基金すべてを使い切ってしまうのか、この先300万円が5年間、10年間とずっと担保されているというところまでは決定していない。市の考え方、平塚市文化スポーツまちづくり振興財団との調整が反映されるため、その点を御理解の上御意見をいただきたい。

委員長 まずは300万円をどう活用するか、ということだが金額にはとらわれず、忌憚のない御意見を。

委員 新たなものを購入するのか。これまで行ってきた文化行政の一部への支援的な支出ということか。

委員長 そこをまとめることもこの委員会での協議による。人づくりに支出するのか、場づくりに支出するのか等の方向性を議論しても良い。

委員 湘南ステーションビル平塚ラスカでコンサートを開催した際に、寄附をいただいているようだが、寄附件数は1回の寄附を1件としているのか。

事務局 寄附1回を1件としている。

委員 1年に300万円という活用では額が少ないので、市民の希望の強い、文化ホールを建てるのに使うとか、まとめた金額にして大きいものに使うという方法はないか。

委員長 この用途について、市としては案があるのか。

事務局 先ほど体制図を説明したが、検討する各組織での意見をまとめていき、報告をあげるという考えでいる。この委員会での意見が即反映されるという訳ではないが、全く自由に意見を出してほしい。

委員 他市での基金の活用状況を把握していれば教えていただきたい。

事務局 川崎市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市では文化振興基金という名称で設置がある。用途としては、川崎市、藤沢市等のように財団に出しているところがある。基金自体が文化振興の事業に特定した形で活用しない自治体もあるようだ。

委員 藤沢の場合は基金の設置も早く、原資が大きいので果実が運用できているようだ。平塚市の参考にはなりにくいのでは。

事務局 市が原資に何億円も拠出して、そこに寄附を足して運用していることが多い。平塚市文化振興基金の場合は平塚市文化財団の設立時に市が拠出した2億円を引きあげた経緯があり、その点でも性質が異なる。

- 委員長** 個人的には、広く薄くよりも集中して使った方がインパクトもあり、効果が高い使い方なのではないかと思う。少しずつではなく、貯めておいてまとめて使うという方法があるのではないか。ではどこに使うのかという議論になるが。
- 委員** 300万円は今後何年くらい継続して使えるのか。1回のみか。
- 事務局** 継続して活用できる額、年数はまだ確定ではない。市の様々な事業を実施するにあたり、財政健全化の観点から、基金から一部充当ということも検討している。「ひらつか協働経営プラン」では、23年度から3カ年は支出する予定である。この委員会では今後の文化施策について中期的、長期的な意見も出していただきたい。
- 委員** 指針には20の施策があるが、300万円で何かすると言われても分割してしまうと単純に15万円ずつになってしまう。仕事の点検での意見だからどうしても300万円使って何かやらなくては、という姿勢・使い方には反対。市民の過半数が納得するものになら使ってもよいと思うが。
- 委員** 基金をプールしておくにしても目的をはっきりさせないとやはり納得してもらえないのではないかと。目的をはっきりと出せば、それもよいと思うが。
- 委員** 平塚市民が、ぜひこれが欲しい、これをやって欲しいという欲求の強いところを探る必要がある。それが建物であれば建物に使うべきだし、事業であれば事業に使えばよい。市民の要望に応じることが不可欠である。市民の自発的な、盛り上がった事業などがいい。お金があるから何かやるのではなく、こういうものをやりたい、というところに使うべき。
- 委員長** 波及効果を生むようなもの、インパクトのあるもの、というところで意見が共通しているようだ。ではそれが何か、というところを探りたい。発掘することが難しいが。
- 委員** 「ことば館」という夢について平塚市の文化情報誌「たわわ」に記事を書いた。本があったり、音楽を聴いたり、自由におしゃべりしたりできる、目的がはっきりしていない人がふっと立ち寄れるようなところがあったらいいと思う。市民活動センターの見直しで閉鎖のおそれがあると聞いたが、自由に入出入りできる、隔てられていない空間で若い人がゆったりと過ごせるような場所が必要だと思う。
- 委員長** ストリート文化のハプニング性を誘発するような施設、ということでもいいか。まちづくりとも関係が出てくるかもしれない。ストリート文化のあるまち、例えば渋谷のようなところが魅力のある街かどうかは色々な意見があると思うが。
- 委員** 見附台に施設を整備するという計画もあるが、文化センターだけでなく、複合的に、今話に出たような場所も作れたらいい。
- 委員** 南口の駅前広場では、人魚の像の保守や、なぎさプロムナードの活性化事業として第2日曜日午前から午後1時までマルシェを開催し、バラの販売などが行われている。このような活動から文化的な営みにも広がりが出るのでないか。
- 委員長** 平塚には、人が集まって何かできるような街の中の広場というものがないように思う。例えばアメリカのカンザスシティという街は噴水の街、と名付けられていて、街中に噴水と広場が多くある。街の中の広場はストリート文化、ハプニング性と関係があるかもしれない。
- 委員** 基金の取り崩しを前提としているということは、今後この基金が大きく増えることはないのではないかと。300万円は、広場や建物を建てる場合には少額であることと、維持に費用がかさむものを作ることに今後課題が残ることから、無理があるように感じる。施策の中で、皆さんに特に広めたい、呼びかけをしたい事業などに援助していく方法はどうか。
- 委員長** もし基金をプールするというのなら、単独ではなく他のものとあわせて使ってもらおうということ

も考えられるのではないか。

委員 市民活動をしている団体などから、活動助成の希望も多いと思うが、平塚市にはどんな団体が、いくつくらいあるのか。

委員 補助金の対象については再度精査している。市民活動団体としての登録は団体が約 300 ある。NPO、市民団体との協働事業や市民主体のまちづくりを進めており、今年度から「市民提案型活動事業」も募集している。これは、市民団体から事業、企画の提案を受けて、内容を審査しこれに係る経費を市が賄うというものである。

行政が提案する課題を、一緒に解決する市民活動団体を募集する「行政提案型協働事業」というものもすでにスタートしている。これは、行政がテーマを提案し市民活動団体がこれを行うものである。

見附町周辺地区の再開発計画については、見附台体育館、崇善公民館、市民センターの建て替えと、見附台公園などの活用を含めて検討している。新文化センター建設の構想では、木谷實記念館の併設を考慮している。

市民活動センターについては、賃料がかかるため市の建物に入った方が安いのではないかとということが話題になっており、閉鎖されてしまうということではない。

文化振興基金の活用方法として、平塚市文化振興指針に掲げる5つの基本目標、20の施策に薄く、まんべんなくお金を使っては効果を生まないのではないかと懸念があった。現在文化・交流課では事業一覧を作成しており、次回の会議の前に委員の皆さんにお示しする。施策として事業の手薄な部分に重点的に支援するという方法もある。昨年度の協議の中では若手アーティストの登竜門のような、支援的な事業がなく、必要ではないかという御意見もあった。自由に御意見を出していただき、庁内検討会議、ワーキングに投げかけていきたいと思っている。

委員 支出についての議論をしているが、寄附がないと基金自体が減ってってしまうと思う。寄附により基金を増やすためのPR等についてはどう考えているか。

事務局 支出の実績がなく、寄附をいただくだけであった。この委員会で活用方法の方向性が出れば、今後はそれをアピールしていきたい。人が集まる場において基金をPRしていくことも考えたい。

委員 寄附の入りの方を考えるとということから、市の文化事業に寄附するとあるイベントの入場料が不要になる等、市民にとってもわかりやすいメリットがあった方がよいのではないか。

委員 若手の登竜門になる事業という話があったが、アーティストの支援という使い方はよいと思う。箱物も大事だが、人、担い手の育成にお金をかけるのも大事なことである。

委員長 平塚市文化振興指針の策定時にも、人にお金を使いましょうという議論が出た。波及効果の高い事業ということをずっと言っているが、それが人ということもある。

委員 今年の4月、35年続いてきた平塚八幡宮の神事能が中止になることが決まった。これまでは赤字でもどうにか続けてきた行事だった。宮司さんが学生の時に広島に住んでおり、原爆被災の状況を目の当たりにしたと聞いている。それを伝えていくために何かしなくてはいけないということで開催してきたようだ。私自身も関わってきたが、観客は増えているが続けられなくなってしまった。市の文化の一つとして定着していたと思う。その背景を知る機会としても、市民が能楽を楽しむ機会としても重要だった。こういうものがなくなってしまってよいのだろうか。

委員 かつては300円くらいの入場料でやっていたように記憶している。入場料を上げて観客が集まれば続けられるのではないか。

委員 7、8年前からは3000円程度とっていたはずである。観客も満員だが続けられなかった。

- 委員** もっと値段を上げても見たい人はいると思う。
- 委員** 市民の文化の一つとして、続けてほしいという声は多かったが残念である。
- 委員長** いろいろな御意見が出た。本日の協議はここまでとする。

8. その他

- ・ 次回日程 11月12日（金）午後1時30分より 市民センター
- ・ 平塚市の文化関連事業のデータベースを作成中
 - 8月以降に資料と意見シートを各委員に送付し、文化振興に対する御意見を伺う予定

9. 閉会

以 上